

<はじめに>

新たな体制で継続と革新を目指す

鈴木達治郎（RECNA センター長）

1. 新体制の発足：継続と革新

平成 27 年度（2015 年度）は RECNA 設立 4 年目の年度であり、センター長も交代して新しい体制となると同時に被爆 70 年という節目の年であった。過去 3 年間継続した研究プロジェクト「北東アジア非核兵器地帯への包括的アプローチ」の成果発信とそのフォローアップ、核不拡散条約（NPT）再検討会議のモニター活動やナガサキ・ユース代表団の派遣・活動の充実、核弾頭データベースとポスター等を継続できた。今年度はさらに、これらの活動に加え、核物質データベースとポスターの作成、11 月に開催されたパグウォッシュ会議世界大会の開催協力、RECNA 叢書や RECNA ポリシーペーパーの発刊、軍縮不拡散教育への取り組み等、新たな活動を開始した。以下、設立当初の活動 4 本柱に従って、2015 年度の活動成果と課題、将来に向けての展望を述べる。

2. 成果と課題

（1）調査・研究

過去 3 年間の研究成果「提言—北東アジア非核兵器地帯設立への包括的アプローチ」（日・英）について、外務省への説明、東京での記者会見等に加え、NPT 再検討会議にて公開フォーラムを実施するなど、世界に向けて発信を行った。また、そのフォローアップとして、平成 27 年度から 3 年間の計画で「核廃絶実現にむけての促進・阻害要因の分析と北東アジア安全保障」と題する科研費による東京大学、明治学院大学、広島市立大学、一橋大学の研究者との共同研究プロジェクトを 7 月より立ち上げた。また、「北東アジア非核化専門家パネル」（仮称）の設置にむけた国際ワークショップを 2016 年 2 月 27—28 日に開催し、日・米・韓・中・モンゴル等から専門家約 20 名が参加して今後のアプローチについて検討した。

（2）連携・協力

今年度も過去 3 年間の連携・協力活動として、核兵器廃絶長崎連絡協議会との協力関係を充実強化したほか、広島市立大学平和研究所や韓国の大学・研究機関との連携も継続した。また、国連軍縮局や包括的核実験禁止条約準備機構

（CTBTO）、日本政府外務省との協力関係も引き続き継続・強化することができた。それに加え、2015 年 11 月 1～5 日に開催されたパグウォッシュ会議世界大会に全面的に協力し、今後は新たに設立されるパグウォッシュ会議東アジアグループと協力することが決定した。

(3) 資料収集・保存

設以来、核兵器廃絶に関する基礎情報を市民データベースとして整備し、ウェブ上で公開することは RECNA の重要な活動の一つの柱である。今年度においても、最新の主要文書の収集とデータベース化に継続して取り組んだ。核弾頭データの 2015 年版はこれまでより多少早い 6 月に発表し、新たに取り組んだ核物質データベースとそのポスターも発表することができた。データベースとしおりの英文版も作成し、国際的にもポスターやデータベースの発信を開始した。

(4) 啓発・教育

NPT 再検討会議にむけて、ナガサキ・ユース代表団は 3 期生 12 名を派遣してこれまでにない充実した活動を実施した。また、NPT 関連会議の開かれぬ年にあたるユース 4 期では、過去 3 年間の活動の「集大成」という位置づけの下、OBOG を含む 10 名が選抜され、学生主体の新たな企画を進めることとなった。今年度からは軍縮・不拡散教育のための活動も開始した。2015 年 7 月には学生向けセミナー「国際社会で活躍する『プロ』と語ろう」、また 1 月には「軍縮・不拡散教育研究会」を開催し、モントレイ国際問題研究所との協力関係も構築した。さらに平成 30 年度に設立計画中の人文社会系大学院設置にも協力した。

将来的には、RECNA を中心として、日本で軍縮・不拡散教育に携わる専門家をネットワーク化する組織を構築する方針を確認した。

(5) 発信・出版

これまでの定期刊行物に加え、今年度からは RECNA ポリシーペーパーを発刊、また出版事業として「RECNA 叢書」事業も開始し、来年度早々には第 1 号が発刊予定である。

3. 新たな中期目標に向けて

長崎大学の中期目標に合わせて、RECNA も 6 年間の中期目標を発表した。

「被爆地長崎の大学として、『世界の非核化及び北東アジアの包括的な安全保障と非核化』の実現に向けた政策提言を行う」との目標を設定し、具体的な達成目標としては、①北東アジア非核兵器地帯実現にむけての「ナガサキ・プロセス」の設計・提言を通じた政策実現への貢献 ②学術研究・出版事業の充実 ③軍縮・不拡散教育・研究プログラムの構築等を通じた人材育成 ④市民データベース・市民講座を通じた地域社会への貢献、を挙げた。特に「ナガサキ・プロセス」の構築は、RECNA を中心として北東アジア非核化を目指す包括的な活動であり、内外の研究者のみならず、地域社会をはじめ、政府や国際機関、さらには市民社会との連携を強化して、全力で取り組んでいく所存である。